

(別紙1) 令和3年度 熊本市エイズ総合対策報告書

ボランティアグループについて

令和4年(2022年)5月

熊本市保健所 感染症対策課

I 熊本大学ピアカウンセリングサークル「くまびあ」について

1 「くまびあ」について

熊本大学医学部保健学科看護学専攻、教育学部養護教諭養成課程の学生を中心としたグループ。ピアカウンセリングの手法を取り入れたワークショップ（コミュニケーション・ライフプラン・性などについて）などを通し、ピア（仲間）として高校生や大学生と一緒により良いコミュニケーションについて考えたり、エイズ・性感染症や性に関する正しい知識を伝えたりする活動を行っている。

II ゲイ支援グループ「Safety Blanket」について

1 背景

国内のHIV感染者・エイズ患者（日本国籍）のうち、約6割が男性同性間の性的接触による感染と多くを占めており、MSM（男性間で性行為をするものを言う、以下同じ。）への予防啓発・教育と検査の推進が急務とされている。

MSM人口は、成人男性（20～59歳）の約4.9%※といわれており、熊本市内にも複数のゲイ向け商業施設等がある。しかし、偏見や差別が存在している社会背景等や、性的指向の側面で配慮が必要なことから、これらコミュニティへの行政による積極的な介入は逆効果と言われており、本市においてもこれまで有効なアプローチ方法がなく、長年、当事者グループによる主体的な活動が望まれてきた。

※出典：H24年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究」（代表市川誠一）

2 経緯

平成26年8月に、福岡のNPO「LOVE ACT FUKUOKA (LAF)」代表 牧園氏から市感染症対策課へ、「熊本で活動しているゲイ当事者によるサークル「KK」のメンバーが、行政と連絡を取ることを希望している」との連絡があった。これを受け、9月に、関係者による連絡会を開催し、協働に向けた取組みを開始した。

※グループ名は、平成28年2月に「KK」から「Safety Blanket」（通称「セーブ」）へ改名された。

3 Safety Blanket について

(1) 構成 熊本在住の20～30代男性 3名

(2) 主な取り組み

- ・コミュニティペーパーの作成及びゲイバーやイベント等での配布
- ・ブログ等インターネットを活用した情報発信
- ・当事者対象の茶話会の実施
- ・セクシュアルマイノリティ当事者として、各種研修会等での講演活動
- ・熊本市保健所とのエイズ啓発に関する取組み